

た ま に 、 母 校 を 思 い 出 そ う

岡山白陵 忠高 同窓会報

発行：岡山白陵同窓会
〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588
TEL:086-995-1255



岡山白陵同窓会
三木高母先生之像

第17号
平成23年12月1日



新しい歴史が生まれる
～更なる高みへ～

記事P6

CONTENTS

ごあいさつ	2	10期生 栗栖源嗣	蛋白質研究所・教授
同窓会だより		12期生 中柄千明	なかつか眼科
楽天イーグルスを応援	3	23期生 中務佑治	Manchester大学研究員
母校だより		新校舎建築状況、寄付金募集要項	6,7
ディベート甲子園 中学の部3位入賞	3	平成23年度進路実績	8
第3回アジア太平洋地理オリンピックに		名簿発刊について、原稿募集	8
日本代表として出場	3	編集後記	8
活躍する卒業生	4,5		
5期生 平田龍市	公認会計士		

会長挨拶



会長

大津 正和

MASAKAZU OTSU

本年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に広い地域に大きな被害をもたらしました。本同窓会の会員の中にも被災された方がおられました。被災された多くの方々にお見舞い申し上げるとともに犠牲となった皆様のご冥福をお祈りしたいと思います。このような大きな自然災害を目の当たりにすると、改めて自然の力の大きさに畏怖の念を抱かざるを得ません。17年前の阪神淡路大震災の発生も、我々を驚かせましたが、世界各地で地震等の発生が増えているようにも感じられ、地球の活動が活発化しているのかも知れません。火山列島である日本に暮らす我々は、どこでも地震が起こりうると、常に自然災害の発生を意識し、それに備える努力を怠ってはいけなと改めて肝に銘じたいと思います。

さて、今年、岡山白陵を訪問された方は、風景が一変していることに驚かれたと思います。校舎の建て替え工事が始まっているのです。学校創立当時からの一番古い校舎は、30年以上前の建物ですから、さすがに現在の耐震基準を満たさなくなって、建て替えられることになりました。このこと自体は、東日本大震災以前に決定していたのですが、偶然にも震災に迎えるかのような時期に建て替えが行われることになりました。万一地震が発生したりすれば、校舎がそれに耐えられなければ、せっかく岡山白陵で学ぼうと集まった在校生たちが大きな危険に見舞われるという危険があります。そのような最悪の事態を避けるためにも、今回の建て替えは意義のあることだと言えるでしょう。建て替えの間、在校生たちは、仮設教室で不便を強いられることとなりますが、安全のためには仕方ないことでしょう。我々同窓生も、この建て替えを応援したいと考えます。できることは限られますが、この後、そのための寄付のお願いをすることになると思いますので、その際にはご協力をよろしくお願いいたします。

このような状況をお知らせするために、今年同窓会報は例年よりも早くお届けすることになりました。最後になりましたが、早まった同窓会報発行にご協力いただいた、校内幹事の先生方、同窓会役員の方々、そして原稿をお寄せ下さった会員の皆さまにお礼申し上げます。また、ご協力下さった、校長先生はじめ岡山白陵の教職員の皆さまに感謝申し上げます。

校長挨拶

緑したたる

緑あって、この4月より本校でお世話になっております。兵庫県の県立高校の校長を3月に定年退職となり、本校に着任しました。退職時は県立小野高校でした。その前は県立龍野高校の校長、更には前は県立大学附属高校の副校長と9年間管理職をさせていただきました。また、神戸にある県教育委員会事務局にも9年勤めました。これらの経験を少しでも本校のお役にたてることができればと思っております。

本校は滔々と流れる吉井川を目の前にした高台に建ち、背後は山に囲まれた風光明媚な自然の中にあります。本校の5月の緑は私が今まで見てきた中で最も美しいと思うほど感動的です。緑したたるとは本校のためにある言葉ではないかとさえ思われます。5月の本校に行けば新緑の中に溶け込んでしまうのではないかとこの錯覚にさえ陥ります。こういう環境の中で学校生活を送ることのできる生徒たちは幸せです。今は秋を迎えています、冬に向かってどのような紅葉が見られるのか楽しみです。

本校の使命はエリートを育てることにありますが、エリートとは誰よりも人のために働くことのできる人間です。学力は勿論ですが、心がなくては駄目だと思っています。四季の移り変わりを愛でることができ、人の心の機微が分る人間を育てたい。そういう者こそが、日本のリーダーたるに相応しいのではないかと考えています。

来年の7月には新たな校舎が建ちます。鉄筋コンクリート5階建て、延べ床面積約7,200㎡で、旧校舎の2倍の新校舎です。新しい校舎に負けないような教育を施したいと思っております。

同窓会員の皆様には新校舎が出来ました暁には、是非お立ち寄りいただき、母校の雄姿を見ていただくとともに、在校生たちのために今後ともより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。



校長

石原 元秀

MOTOHIDE ISHIHARA

同窓会だより

楽天イーグルスを応援

中学入学2期(高校5期)有志により、阪神甲子園球場で開催された東北楽天イーグルス本拠地開幕試合「楽天vsオリックス」を観戦し、イーグルスを応援しました。

皆さんご存じの通り、楽天の三木谷オーナーは我々の元クラスメートということもあって、被災地の球団として頑張っているイーグルスを、被災地東北仙台のファンの皆さんになりかわり応援しようというのが会の趣旨です。



参加者は、2期井上享三、井上(旧姓宮崎)加奈女、入江寛、増田晃司、佐藤一行、藤原直彦の6名と特別ゲストとして高校1期の大津正和同窓会長をお招きしました。幸い、田中“マー君”将大投手の好投で楽天が勝利し、応援の甲斐もありました。

同期では河端道郎(宮城県名取市在住)君が被災したこともあり、当日フェイスブックや携帯電話などで相互の状況交換したりもし、今後も、同期の間で同君へのサポートや被災者への支援などもやっていこうということを話し合いました。

(5期 藤原直彦)



母校だより

ディベート甲子園 中学の部3位入賞

今年、中学ディベートは全国3位を取ることができました。昨年の優勝という大きなプレッシャーの中で3位を勝ちとれたことは、とても嬉しかったです。

私がディベートを通じて学んだことは大きく2つあります。1つ目は準備の大切さです。調べてきた資料を読む、そんな日を積み重ねることで、新しい気付きが生まれました。地道な準備をコツコツ続けることの強さをとても感じました。そして2つ目は仲間



の大切さです。サポーターの人が取ってきてくれた他の学校のメモがなければ、チームとして勝ち上がることはできませんでした。また、お互いに注意し合ったり、励まし合ったりできたことで、チーム全体で戦っているという意識を持つことができました。

最後になりましたが、この夏に向けてたくさんお世話になった先生方、ありがとうございます。来年の夏も、頑張りたいと思います。(中3 第一反駁担当 真田知佳)



第3回アジア太平洋地理オリンピックに日本代表として出場!

高3 喜多 修渡君

今年3月に行われた、「科学オリンピック地理日本選手権大会2011」において、現高校3年生の喜多修渡君が金賞を受賞し、日本代表としてメキシコでの世界大会に出場しました!その際の感想を御本人に聞きました。



世界遺産 チチエン・イツァ遺跡にて

今回、地理オリンピックに参加したことで、僕は多くの貴重な体験をすることができました。例えば、英語を使わざるをえない環境におかれたことです。もちろん、相手に自分の意図することが伝えられないせいで、会話が成り立たないことも多々ありましたが、その分伝えられたときの喜びは大きかったし、自分の英語の学習法を見直すいい機会にもなりました。また、他国の高校生と交流をすることができたのも、大きな収穫でした。自

由時間に皆でホテルのロビーに集まり、トランプをして楽しんだり、テレビでサッカーを観戦して盛り上がりつつあることもあれば、原子爆弾について真面目に意見を交わしたりすることもあり、他国の文化や価値観に直接触れることができたという点で、とても貴重な体験でした。せっかくこのような機会を与えていただいたので、地理オリンピックで得たことを無駄にせず、将来に活かしていきたいと思っています。



開会式後 各国代表と後列右から3目が喜多君

活躍する卒業生



公認会計士 新日本有限責任監査法人勤務

平田 龍市 (5期生)

RYUICHI HIRATA

5期生の岡山白陵精神！？卒業して約30年、社会人としても中堅となり、公認会計士の部下や後輩あるいはクライアントに対して、やり遂げる意思の重要性、意思に基づく行動の必要性、照

れながら、誠実さや公正さを語る事が最近では少しできるようになったその基礎は間違いなく岡山白陵での生活、環境、先生方の指導で習得したものだとつくづく実感します。

振り返れば、懐かしいけれど今でも身震いする園長先生の授業。多分、監獄ってこんなところかな？と想像させるのに十分な寮生活。確か、金魚やピラニアも食べてたな。(寮での通称であり、本当のそれらではありません、念のため。)

園長先生の授業は、目が合うと指名されロクなことにならないので、下を向いてひたすらやり過ごすことに徹しておりましたが、

ごく稀に先生の機嫌がいい時があり、安心して拝聴出来る機会もありました。さすが偉大な教育者。大事なことはリラックスモードで語りかけます。「ええかー。お前ら普通のサラリーマンになったらあかんぞ。」この園長先生の一言は社会人生活の中で、何度も、繰り返し繰り返し私に問いかけてきました。「龍市！おまえは普通のサラリーマンか？」

公認会計士の世界も組織化され、サラリーマン化の弊害がないわけではありませんが、その中でも、自分としては新たな業務のパイオニアとしての活動や、国益と企業活動のバランスを実務でとってみせる、と意気込んでこなしつつ、「先生！ここまでやると普通のサラリーマンでないですよ。」と園長先生に今更ながら認めてもらいたいという気持ちが湧いてくるのは何故でしょうか。

ジワっとと人生に効きながら目指すべき方向を照らしてくれる、私の頃の岡山白陵精神とはこんな感じです。



大阪大学蛋白質研究所・教授

栗栖 源嗣 (10期生)

GENJI KURISU

母校を訪れるのは、阪大に進学した直後の年に一度訪れて以来、実に22年ぶりであった。新幹線から山陽本線へ乗り継いだ岡山駅の変りぶりには驚いたが、最寄りの熊山駅をおりて母校までの道のりは昔とあまり変わっておらず、丘の上の校舎や体育館の遠景を眺めながら歩いて母校を訪問した。(中略)

校長室でしばらくお話をさせていただいた後、応接室で昼食をとりながら学校の近況をうかがった。英語を教えていただいた間野先生、物理を担当いただいた笠原先生と一緒に昔話を花を咲かせていると、多くの懐かしい先生方が「覚えとるか？」と応接室を訪ねてくださった。

20年以上前の先生方が、現在も同じ校舎で勤務なさっているのは私立学校の特徴とはいえ、在籍当時のことを先生方が非常によく覚えて下さっているのには大変感激した。講演会後にお話した化学の古松先生からは、私自身がすっかり忘れてしまっている中学一年の頃のエピソードを大変懐かしうかがった。温かく見守られていたことを実感した瞬間であった。

講演会は、バレー部に所属していた私には大変懐かしい体育館で行われた。中学3年生、高校1、2年生の他に、「進路講演会」という位置づけで数十名の父母の方の姿も見られた。「岡山白陵の後輩達へ」と題して行った80分の講演の前半は、高校までの教育と大学・大学院での教育の違いについて話をした。私は、阪大を卒業後、蛋白質研究所で助手、米国Purdue大学で客員研究員、東京大学で助教授・准

教授と、異動により3つの大学で研究・教育生活を送った。自分自身の経験を交えて、単一の価値観では測れない各大学の個性について紹介した。(中略)

講演の最後に、先輩としてというより親世代からのメッセージを伝えたいと思い、若干の時間をとった。山間部の過疎地出身の自分、大学進学を目指して中学一年の時に親を離れ岡山白陵の碧翠寮に入寮した。当時の父親と同じ年齢となった今、10年前に急逝した父親に、なぜひとりでいいから感謝の気持ちを伝えられなかったのかという後悔の気持ちが強い。そうした背景から、恵まれた学習環境を提供して下さる御両親に感謝して欲しい旨を伝えて講演を終えた。

講演会の後、応接室で休憩していると、数人の高校生達が質問に来てくれた。「医学分野の研究者になりたいのですが…」「物理学者になりたいのですが…」など、研究者・科学者は憧れの対象なのだを再認識させられる質問の他に、「論文はどうやって掲載されるのですか？」という具体的な質問まで受けて、大変喜ばしい気持ちとなった。恩師の先生方は、「昔に比べると最近の学生はおとなしいよ。」と仰っていたが、なかなかどうして、ハッキリした意思を持った前途有望な高校生達であった。きっと、私が定年を迎える頃には、彼らが研究の第一線で活躍していることであろう。

「平成22年度 最新、最高の研究が学びの意欲を刺激する「出身高等学校訪問」報告書」より抜粋



今回も様々な方面から多彩な方をお迎えして「活躍する卒業生」をお届けします。「高校生のときと変わったなあ。」ですって？いえ、岡山白陵魂はどなたの中にも健在のようですよ。



なかつか眼科

中柄 千明 (12期生)

CHIAKI NAKATSUKA

12期生の中柄千明です。昨年12月に姫路赤十字病院を退職し、今年4月から地元である岡山県JR和気駅の近くで眼科医院を開業いたしました。医院は岡山白陵高校から車で10分程度の場所にあるため、建設中の新校舎を眺めながら毎日熊山橋を渡って通勤しています。

眼科医を志した時点から将来地元で開業することが自分の長年の目標でもありました。大学院進学や2年間のアメリカ留学、姫路赤十字病院での勤務医時代を経て、39歳にしてやっとスタートラインに立つことができました。

4月に開業して約半年が経過しましたが、優秀なスタッフに支えられ、これまでのところ大きなトラブルもなく順調に診療を続けています。岡山白陵の生徒さんや先生方も多数受診して下さい、本当にうれしく思っています。

勤務医、開業医ともに一長一短あると思いますが、勤務医の場合、病院が整えてくれた環境の中で自分の役割をこなすことに専念することができました。一方、開業の場合、何の保証も無いなか、資金・設備・機器・スタッフ・システム等すべてを自分で準備し、維持し

ていかねばならないという点では気苦労が絶えません。また当院では日帰りでの白内障手術も行っているためストレスもありますが、その分やりがいも大きく、眼科医療を通じて地域の皆様にある程度貢献できていると自負しています。これまでこの地域には眼科医院が少なく、一日仕事で遠方の病院まで通われている方が大勢いました。大学病院や岡山市内の基幹病院に行かなくてもそれに近いレベルの眼科医療を提供することがこれからの私の目標です。

まだまだ理想の医療にはほど遠く試行錯誤の毎日ですが、少しでも良質な眼科医療を提供できるよう経験豊富で明るいスタッフと共に日々がんばっています。

現在の自分があるのは中学・高校時代、熱心に指導して下さった岡山白陵の先生方のおかげであると卒業して20年経ちますが今でも感謝しています。私は岡山白陵中学・高校の卒業生であることを今でも誇りに感じています。地元で暮らす一人として母校の岡山白陵中学・高校が今後ますます発展するよう微力ながら何らかの形でお役に立ちたいと考えています。今後ともよろしくお願いたします。



Manchester大学研究員

中務 佑治 (23期生)

YUJI NAKATSUKASA

私はこの度University of California, DavisのApplied MathematicsのPhD課程を卒業し、今後イギリスのManchester大学で研究員として数年間務める予定になっております。数学の数値解析という分野を専攻しています。行列の固有値の研究といえば、理系の方には分かっていたかもしれませんが。先日Leslie Fox Prizeという、当分野では世界最高峰の賞の一つを受賞する名誉を得ました。この度、光栄にも同窓会誌への原稿依頼をいただきましたので、お世話になった諸先生方への感謝を込めての近況報告とともに、執筆させていただきます。

私は2001年岡白から東大理科一類に進学し、応用物理を専攻しました。大学院からは指導教授に応用数学の専門家を選び、それ以降は数学のみをやっています。UC Davisには2006年から入学しました。渡米後しばらくは環境に慣れるのに苦労しましたが、それ以降、特にここ数年はまさに研究漬けの生活をしています。ただ研究といっても別に常に研究室で机に向かっているわけではなく、私の場合は寝転んで目を閉じて考える作業が最も発想を生みます。これは実験のない数学の特権ともいえるかもしれません。もちろん、数学はただ時間をかければ進むものではありません。しかし、研究となると、短



Leslie Fox Prize授賞式にて

めの論文でも一本書き上げるには100時間では足りませんし、最高峰の研究者は例外なく長い時間と大変な集中力で数学と向き合っています。

私は今、知識、経験ともに第一線の研究レベルに達した手応えを確かに感じ、時には新しい発想が面白いように出てくる段階にあります。誰もやっていないことを少しずつ解きほぐしていく時の達成感はないものにも代えがたいものです。同時に、年齢と共に発想力が失われることへの恐れもあります。とはいえ、私は数学の研究者としての道を選びましたが、私にとってこれほど満足できる道は他になかったでしょう。思えば、私にとって数学は子供の頃からの情熱であり、数学で暮らしていくことは理想でした。この境遇に満足することなく、今後一層自分の道に進んで行きたいと思っています。

最後になりましたが、岡山白陵の先生方並びに同窓生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

新校舎建築状況 旧校舎解体から新校舎建設へのシナリオ

平成23年4月 旧校舎解体作業開始



平成23年6月 地鎮祭



平成23年7月～平成24年7月 新校舎建築



平成24年7月 新校舎完成



現在、来年7月の完成を目指し、着々と工事が進行しています。完成の暁には、皆様方にもぜひ見学の機会を設けたいと思っております。

岡山白陵の更なる飛翔を、ご支援ください!!

校舎建替 寄付金募集要項

この寄付金募集は、母校を支援するため岡山白陵高校同窓会が同窓会員を対象として行い、会員からの寄付をまとめて岡山白陵中学校・岡山白陵高等学校の校舎新築建て替え資金として学校法人三木学園へ寄付します。

募金 1口 **10,000円**

できましたら複数口のご協力をお願いいたします。
1口未満でもありがたくお受けします。

同封のゆうちょ銀行払込取扱票によりお払い込みください。

申込方法

口座番号：01270-8-13591

加入者名：岡山白陵同窓会

*領収書はゆうちょ銀行の郵便払込金受領書をもってかえさせていただきますので、ご了承下さい。

*この寄付金は減税措置を受けることができます。

個人がその年に支出した寄付金の額が2千円を超える場合には、その超えた金額について、その年の課税所得金額から控除されます。但し、寄付金額が年間所得の40%を上回る場合は、40%が限度となります。

寄付金控除額 = 寄付金額 - 2千円

減税措置を受ける手続きは寄付された翌年の確定申告で行いますが、その際、領収書及び特定公益増進法人であることの証明書（写）が必要です。この証明書写が必要な方はゆうちょ銀行払込取扱票の通信欄に証明書必要とお書き添えください。

平成23年度進路実績

国公立大学	合格者数	私立大学	合格者数
東 京 大	12	早 稲 田 大	14
京 都 大	8	慶 應 義 塾 大	20
大 阪 大	11	中 央 大	9
北 海 道 大	1	明 治 大	11
東 北 大	5	東 京 理 科 大	9
名 古 屋 大	2	関 西 学 院 大	10
九 州 大	5	関 西 大	2
一 橋 大	0	同 志 社 大	15
神 戸 大	7	立 命 館 大	8
岡 山 大	11	大 阪 医 大	6
他国公立大学	64	他の私立大学	89
国公立大学 計	126	私立大学 計	193
(内 医学部医学科)	(46)	(内 医学部)	(40)
(内 岡山大学医学部医学科)	(6)		

過去5年間の実績

	H19	H20	H21	H22	H23	計
国公立医学部	31	34	31	48	46	190
東 大	13	9	19	26	12	79
東大理三	1	2		1	3	7
京 大	3	5	6	7	7	28
京大医	1	1				2
卒業生	173	172	175	170	171	861
東大・京大・医学部率	26%	26%	32%	47%	36%	34%

会員名簿を発刊します。

同窓会では、4年に1度会員名簿を発刊しております。平成24年は、その改訂の年となり、10月に会員名簿を発刊することとなりました。調査から印刷・製本・発送に至るまで小野高速印刷株式に委託いたしました。

つきましては、平成24年3月に調査開始し、調査はがきをお送りさせていただきます。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

調査に関するお問い合わせ

TEL:0120-66-7754(平日9:00~16:00)

FAX:0120-81-2299(24時間受付)

E-mail:meibo@dousou.info

ご注意!

同窓会とは関係のない業者から名簿発刊の案内があったと報告がございます。文面には「同窓会とは関係ございませんが・・・」などと書き込まれているようですが、十分ご注意ください。同窓会は、**小野高速印刷株式のみ**へ委託しております。

原稿募集

ご紹介
下さい!

事務局では、今後も会員の方々のいろいろな情報を掲載し、会員相互の情報交換の場にしていきます。



- ・同期会、クラス会、OB会の報告
- ・旅行記、修学旅行、入学式、高校時代の思い出
- ・卒業生のご活躍の方々、お店の紹介
- ・同期会等の開催告知 etc...

まずは、同窓会事務局まで、郵送又はメールでお寄せ下さい。尚、紙面の都合上、掲載できない場合もございますので、ご了承下さい。

岡山白陵同窓会

〒709-0715 岡山県赤磐市勢力588 TEL:086-995-1255

学校ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/> 同窓会ホームページ <http://www.okahaku.ed.jp/dk>

E-mail dousoukai@okahaku.ed.jp

編集

Editor's note

後記

今回も、多くの方々のご協力により、同窓会報第17号を発行することができましたことに感謝します。

今日もカンカドンドンと、槌の音やら資材の触れ合う音やらが賑やかに響いています。

6頁でもお知らせしたように、広い範囲にわたって大きな校舎が少しずつ、しかし、毎日確実に作られていくのです。その光景にはそれだけで“力”を感じさせるものがあります。

今はまだ、土台部分のみで、熊山橋からも見るこ

とができませんが、来春にはその概要が、そして夏にはその全貌がわかります。熊山のふもとに、一際目を引く校舎の威容がそびえ立つことになるでしょう。どうぞ、皆様、母校の新たな門出を共に応援し、祝っていただきたいと思います。

最後に1点、ご連絡を。来年は4年に1度の同窓会名簿改訂の年となっています。そのため、来年の3月上旬に住所確認の葉書をお送りします。皆様のご協力を賜りますよう、よろしくお願い致します。